

宇佐海軍航空隊

昭和14年(1939)10月、宇佐海軍航空隊(宇佐空)は佐伯・大分に次いで県内3番目の海軍航空隊として開隊しました。基礎訓練を終えた搭乗員に実戦機を用いた訓練を目的とする練習航空隊でしたが、敗色が濃厚となった昭和20(1945)2月に沖縄作戦の指揮をとる第五航空艦隊司令部が鹿児島県の鹿屋基地に新設されると、宇佐海軍航空隊は神風特別攻撃隊の中継基地にもなり、このため特攻の訓練を受けた多くの若者が宇佐から南の空へ飛び立っていきました。

昭和20年(1945)3月18日に宇佐で初めての空襲があり、同年4月21日には米軍機「B29」の編隊による猛烈な爆撃で、航空隊関係者だけでも320人以上が戦死しました。宇佐海軍航空隊は庁舎・格納庫などの施設をはじめとして壊滅的な状態となり、航空隊としての機能を失いました。

また、被害は周辺地域や住民にもおよび、多くの死傷者が出ました。宇佐海軍航空隊は同年5月5日に解隊し、西海海軍航空隊の宇佐基地として終戦を迎えました。



宇佐海軍航空隊の正門と庁舎

宇佐市では戦争資料の収集を続け、本格的な平和ミュージアムの建設を目指しています。当館の開設はそれに向けた第一歩であり、戦争の悲惨さと平和の尊さを学ぶ場として多くの皆様にご利用していただくとともに、ご協力賜りますようお願い申し上げます。



映画「永遠の0」で使用された零戦21型の実物大模型



昭和20年3月18日に宇佐空の格納庫などを米軍が空襲する米軍撮影の映像 ※館内にて上映(約7分)

宇佐海軍航空隊の歩み

- 1939年(昭14) 10月1日 艦上攻撃機・艦上爆撃機の練習航空隊として宇佐郡柳ヶ浦町に開隊
- 1941年(昭16) 10月7日 ハワイ真珠湾攻撃に参加する航空母艦の艦上攻撃隊が宇佐で訓練を開始
- 12月8日 太平洋戦争開戦
- 12月28日 真珠湾攻撃に参加した飛行機隊が宇佐空に帰隊
- 1943年(昭18) 7月9日 コの字形無蓋掩体壕を造り始める
- 1945年(昭20) 2月11日 人間爆弾「桜花」を吊し出撃する一式陸上攻撃機30機が宮崎基地から宇佐空へ移動(第721海軍航空隊:通称神雷部隊)
- 2月16日 練習連合航空隊司令官から宇佐空へ110名の特攻訓練が命令される
- 3月1日 練習航空隊から実戦部隊となる
- 3月18日 米軍艦載機により宇佐が初めて空襲を受け14名の死者が出る
- 4月6日 第1八幡護皇隊艦爆隊・艦攻隊が沖縄へ特攻出撃
- ※ 以後、5月11日までの特攻で81機154名が戦死
- 4月21日 米軍機「B29」の空襲で約320名の航空隊員が戦死
- 5月5日 宇佐海軍航空隊解隊
- 西海海軍航空隊宇佐基地となる
- 8月15日 終戦

交通のご案内

- ・JR柳ヶ浦駅より車で約15分
- ・宇佐別府道路宇佐ICより車で約10分

